

H O YOG

教区新報

発行所

浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】 兵庫教区広報部

2016.10 196号

伝灯のよろこび

伝灯奉告法要始まる

いよいよ十月一日、第二十五代専如ご門主の伝灯奉告法要が始まった。法要初日は法要開始式に始まり、約二千五百名の参拝のもと、雅楽の調べと共にご門主が御影堂に

入堂、厳かに法要が勤められた。翌二日からは、全国各地の参拝者約二千人をお迎えし、阿弥陀堂・御影堂の両堂にて法要が営まれた。法要は、来年五月三十一日まで十期(二期八日間)にわたって八十座が勤められる。本法要では新たに「奉讃伝灯作法」が制定され、両堂二千人の参拝者とともに正信念仏偈がお勤めされる。

白洲には、休憩施設「本願寺おてらかふえ&まるしえ」『AKARI(アカリ)』が設けられ、軽食の提供や、京都名産品の販売等が行われ、多くの参拝者や観光客で賑いをみせた。



入堂を待つ参拝者

法要に参拝のご門徒、西田孝さん(阪神東組専正寺)は「いつかいつかと参拝を楽しみにしていた法要に参拝することができ、とても嬉しかった。

暑い中の参拝になったが、若いご門主様とお勤めすることができ有難かった。ご門主様にはリーダーとして浄土真宗を引っ張って行って頂きたい。

本願寺はいっ行っても御同朋に会える大切な場所。この法要をはじまりとし、私達も益々お念仏のみ教えが広まるお手伝いをしていきたい、と気持ち新たにしたい。

今後、門徒推進員のボランティアとして法要のお手伝いもするので、全国各地から参拝される御同朋・御同行の皆さんを笑顔でお迎えしたい」と話された。

法要中、本山では記念参拝式や仏前結婚式、ご門主ご臨席による初参式など様々な行事が行われる。受式に関するお問い合わせは本山法要行事部へ
☎〇七五・三七一・五一八一

(二面に関連記事)



「地獄って本当にあるんですか」と尋ねられることがあります◆私は「地獄とはあるかないか、を問うのではなく、自分がつくるか、つくらないか」と教わりました。つまり、地獄とは自らの悪業によって生み出される世界であり、己の罪によって受ける報いということです◆以前、八十歳のある女性の方が「私が子どものころは、お寺の日曜学校で『食べ物で粗末したら罰があった。嘘をついたら地獄に墮ちる』と教えられ、子どもながらに悪いことはしてはいけない、いのちを粗末にしてはいけない」と思いました。しかし、息子に『悪いことをしたら地獄に墮ちる』と言ったら、『そんなものどこにある、あるなら見せてくれ』と平気な顔で言われ、悲しくなりました」と話して下さいました◆地獄という意識のない者は、罪の意識もなく、反省する心もないのかも知れません。そして、「この世に地獄をつくり出すのかもしれない」とわが身を振り返りながら考えさせられました。

氷上東組 明光寺 藤井大頭

伝灯奉告法要関連 行事、にぎやかに

伝灯奉告法要では、様々な特別行事が行われ、法要を盛り上げている。

白洲境内でひとときをわ目を引くのは「本願寺おてらかふえ&まるしえ『AKARI』」。ミシユランガイド七年連続星獲得のレストラン「リュミエール」が手がける料理が振る舞われ、多くの人で賑わいを見せている。

カフェスペース隣には、「井筒八ツ橋本舗」やお漬物の「西利」、お箸や工芸



法要を終えて賑わう「AKARI」

品など、京都の名産品が並ぶ。小さな子どもも安心して遊べるキッズコーナーも設けられ、家族で楽しめるよう工夫されている。

また、同じく白洲境内のお茶所では、十五分の法話をリレーする「お茶所布教リレー」や、「仏事相談」、布教使による本願寺境内ツアー「お西さんを知ろう」も行われている（法要期間中は、九時半と十一時の二回・一回三十分程度）。

北境内地（団体参拝バス乗降所）の門徒会館前には、「開明社（本願寺御用達の老舗組織）」を中心とした「本願寺門前町店舗」がお念珠や仏具、銘茶や京銘菓などを販売。

また、「国宝・書院、飛雲閣」の特別公開も開催。特に飛雲閣では、一日四百名限定の慶讃茶席が設けられ、京都三名閣の一つで贅沢な時間を過ごすことができる。

悟りの智慧を味わう 6回継続全6回（第1回）



「言葉は知っていても、その意味となると、とても味わい深い仏教の『ことば』。そんな仏教用語の味わいを、岩谷教授さんに『悟りの智慧を味わう』と題し連載いただくことになりました。（全六回予定）」

いらい五年間、三日に一度のペースで剃っている。当初はよく頭から血を流したが、今ではそのようなヘマをやることは無くなった。風呂の中で目をつむったまま、左手の指先で剃り残しを探しながら、右手に持った三枚刃をたくみに走らせる。その時ふと頭に思い浮かぶのが、「執着」という二文字である。

私の苦とは、「髪の毛も薄くなってきた、いよいよ老いが近づいた」という自覚（老苦）であり、その原因は、「そうであっても、まだまだ若くありたい」という若さに対する執着（老衰）であった。そういえば数年前ネズミの背中に人毛が生えている映像を見た記憶があった。細かいことはよくわからない物ねだりも、昨日の怒り腹立ちも、今日の自分の愚かさも、こたわり、かたより、とらわれたころだったな」と振り返りながら、執着という髪の毛を剃っているのである。そもそも僧侶が髪の毛を剃ったのは、様々なことから対する執着を離れるためであったという、が…。

積尊は、「人生は苦しみで満ちている」と見通し、その苦悩の原因は様々なことに執着するところであると説いた。

たとえば「無量寿経」には「有田憂田、有宅憂宅」と説かれる。「田があれば田のことが気になり、家があれば家のことが心配の種となる」ということで、土地や財産を持つとそれらが気になり、それらに縛られてしまう、ということ。

先日の夕方、たまたまテレビをつけたらNHKで「毛髪再生医療、臨床実験開始!」というニュースをやっているのを見た。そういうえば数年前ネズミの背中に人毛が生えている映像を見た記憶があった。細かいことはよくわからないが、「自分の毛根鞘細胞を培養して、薄くなった箇所に入れば髪が元通りに生えてくる」ということらしい。「実用化は早ければ二〇一八年」とのこと。

全く「執着」ということは「苦」の因となる。この苦悩から解放される道は、様々なことに執着することを離れなければならない、と。

さしずめ、この場合の

ああ、また「執着」が頭をもたげてきた。悟りの道はまだまだ遠い。

「執着」ということ

頭を丸坊主に剃りはじめて五年になる。現在五十五歳。五十路を迎え、頭頂部がめだつて薄くなりはじめた。それまでいろんな育毛剤を試してきたが、さほど効果はなかった。どうしようか。「ええい、この際いさぎよく剃ってしまったら」と考えたのがきっかけであった、と思う。

◆執筆者紹介

いわに さずく
岩谷 教授



掛龍西組西法寺住職

1960年生まれ。

元浄土真宗教学伝道研究センター常任研究員(聖典編纂担当)。龍谷大学文学部非常勤講師。相生市文化財審議委員。

研究テーマ「播磨地域の真宗史」。目下の関心事「真宗寺院に遺る法宝物を如何に後世に伝えるか。一番はお念仏!」。モットー「笑えるように生きたらええがな!」。

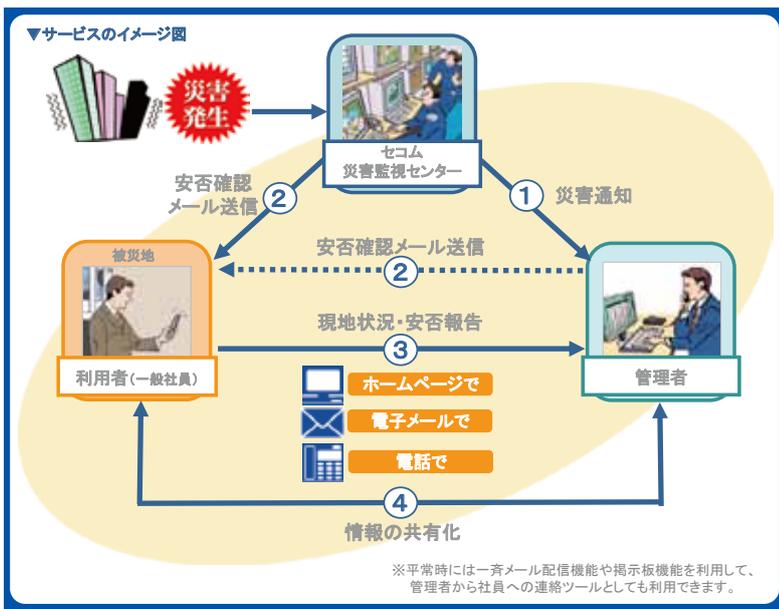
防災担当者研修会のご案内

十一月二十四日(木)の午後時半より、別院階にて「セコム安否確認サービス」組防災担当者を対象としたシステム講習会を開催する。

この「セコム安否確認サービス」は、兵庫教区の平成二十七年(度)〜平成二

十九年度「御同朋の社」会をめざす運動(実践運動)における重点プロジェクトでの重点目標にある「災害対応」として、教区独自にて構築された災害対応システムである。

具体的内容としては、近い将来に起こると予想される「大規模災害地震」を想定しており、近畿中国・四国地域において震度五強以上の地震が発生した場合、自動的に「セコム災害監視センター」から、各寺院のメールアドレス登録者に対して安否確認のメールが斉送信される。



※平常時には一斉メール配信機能や掲示板機能を利用して、管理者から社員への連絡ツールとしても利用できます。

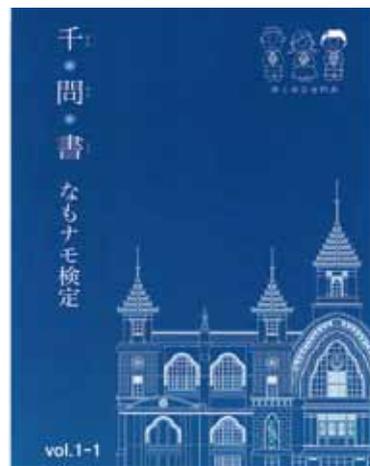
また、集約された被害状況については、教区災害対策委員会並びに各組にて選出された防災担当者(サービス概要図では管理者と表示が確認すること)ができるので、組内でも教区内の被害状況を把握することができるようになります。

この度、兵庫教区子ども・若者ご縁づくり推進委員会では、『浄土真宗専門書・千問書(なまも検定)』を発売しました。

阿弥陀様や、お釈迦様、親鸞聖人についての設問はもちろん、七高僧のご事績や恵信尼様、蓮如上人について、本願寺の行事や仏事作法の事など、幅広い内容についてクイズ形式になっている。

今回の第一巻(問題数二〇五問)を始めとして継続発行し、問題数を千問とすることを旨とする。

8月1日発売!!
1冊100円(税込)



子ども達と一緒にお祈りを学べる2冊!

千問書(なまも検定)発売
お子様、ご家族とぜひ挑戦下さい

プレなまも検定

兵庫教区子ども・若者ご縁づくり推進委員会では、一月二十一日(土)午後一時三十分より神戸別院において、千問書を使って「プレなまも検定」を開催する。詳細については、後日案内予定。お問合わせは教務所まで。

また、より詳しく知りたい方のために、プトラハンドブック(本願寺派少年連盟)・スカウトハンドブック(本願寺派スカウト指導者会)等と併せて活用することを勧めしている。

地域とのつながりを

別院報恩講法要



11月26日(土)~28日(月)
本願寺神戸別院
報恩講法要

ご講師：岩間行則 師
／本願寺派布教使・ビハラー本願寺施設長

ン・焼き芋等)の出店がなされる。

また、「既存の行事を如何に活性化させるか」「どのような役割があるか」を見直すため、教区各種団体と協力しての伝道モデル事業として、教区教化団体に法要への参拝奨励を実施①仏教壮年会員に報恩講の意義や御伝鈔に親しんでもらうことを願い、「教区仏教壮年会連盟泊研修会」(二十六日～二十七日)を開催②仏教婦人会・寺族婦人会の参拝奨励日(二十七日)の「門信徒の集い」にて仏教讃歌や音楽法要への参画③門徒推進員・門徒総代の参拝奨励日(二十八日)を設け、満座後、「門徒推進員の集い」を開催。

十一月二十六日(土) 催される。

二十八日(月)の三日間、岩間行則師(本願寺派布教使・ビハラー本願寺施設長)を講師に「本願寺神戸別院報恩講法要」が修行される。

今年度の別院報恩講は、別院重点プロジェクト「地域と寺院のつながりを大切にする」を踏まえ、門信徒だけでなく、地域とのつながりを深め、より多くの人に別院とのご縁を結んでいたことも目的に開

催される。二十七日(日)は、別院周辺(花隈地区)の事業者が中心となった「花隈モダンタウン協議会」に参画し、「花隈モダンタウンフェスティバル」を開催。フェスティバルでは①花隈地区の歴史紹介(写真展)②近隣小学生による「子どもが描く花隈マップ」、神戸山手大学による「多文化共生・花隈ハザードマップ」「花隈とその周辺の魅力紹介」③花隈地域の飲食店(パ

子どもたちが別院へ

報恩講子ども集い 『東儀秀樹氏』が子育て論を講演

十二月二十三日(金)、神戸別院にて「報恩講子ども集い」(教区少年連盟主催)が開催される。



東儀秀樹 氏

本つどいは、震災復興支援として毎年行われており、今年で二十二回目となる。

当日は、報恩講のお勤めの後、模擬店や子ども向け行事の実施、東儀秀樹氏(雅楽師・俳優)による子育てについての講演も開催される。

※詳細は後日案内

阪神・淡路大震災

物故者総追悼法要

1.17「いのち」の研修会

一月十七日(火)午後二時三十分より

於神戸別院

あなたには、忘れられない日がありますか。
私には、そっと手を合わせる日があります。

1.17 「いのち」を考える研修会

2017年1月17日(火)
13:30 阪神・淡路大震災物故者総追悼法要
14:15 「いのち」を考える研修会
講師 木村 草太 氏 (法学者)
本願寺神戸別院
神戸市中央区西町35 三井神戸ビル3F

名鉄観光サービス株式会社

〒650-0038

神戸市中央区西町35 三井神戸ビル3F

TEL078-321-5005 FAX078-321-5019

私たちは『人と人との出会い』とそこから生まれる『コミュニケーション』を大切に、心豊かな社会の発展に貢献します。

WEBから簡単便利に世界へ

旅pad